

富士山登山学校ごうりき 特別賞受賞

●富士山流エコツーリズムで、環境省エコツーリズム大賞特別賞●

「富士山を訪れる人を、まごころのおもてなしでお迎えし、満足のみならず感動を味わっていただくことが富士山流エコツーリズム。それが富士山周辺地域の活性化と環境保全の第一歩。」と、環境省主催の第2回エコツーリズム大賞特別賞に選ばれた「富士山登山学校ごうりき」の近藤代表。同校では、富士山の未来を見据えた自然、歴史、環境に配慮した質の高いエコツアーを目指しています。2002年から、吉田口登山道を中心としたエコツアーの実施や、地域の子どもたちへの富



吉田口登山道のエコツアー
(写真提供:富士山登山学校ごうりき)

士山学習や遠足、人材育成など、地域社会とのつながりや温かみを大切にした活動を続けています。今回の受賞は、その活動の積み重ねが高く評価された結果です。

「ごうりき」という名前には、「力を添え合わせて目的を果たさせる」という意味が込められているそうです。近藤代表は、「富士山を美しいまま未来に引き継ぐためには、個人、民間事業者、NPO 団体及び行政が、同じ土俵で、同じ目線で、力を合わせていくことがとても大切。」と語っています。富士山の未来を見守り、地域を愛する気持ちに支えられた「富士山登山学校ごうりき」の今後の活躍が注目されます。また、環境省エコツーリズム大賞の大賞には、富士山麓地域において活動しているホールアース自然学校が選ばれました。

●富士山登山学校ごうりき●

住所:山梨県富士吉田市旭 4-1-14

TEL: 0555-24-1032 URL:<http://www.fujitozan.jp/>

富士北麓市町村等の富士山関連事業 その7

●忍野村の景観をいかしたまちづくり●



年間80万人の観光客が訪れる忍野村の風景(写真提供:忍野村)

忍野村のイメージといえば八つの湧水、かやぶき屋根、水車、そして富士山。こうした豊かな自然環境に彩られた農村らしい原風景を守り、観光資源としても効果的に活用するためには、村内の建築物や屋外広告物等の高さ、デザイン、色彩への配慮が必要です。これらは、村の忍野村まるごと庭園景観条例や忍野村大規模建築物等設置指導要項によるゆるやかな指導で、統一された景観へと誘導されています。また、忍野村街なみ環境整備事業として、モデル地区を設定し、住民の皆さんの意見を集約しながら、ハード整備を行っています。さらに一歩進めて、村では「より実効性のある景観づくり」をすすめるため、平成 18 年 12 月、「景観行政団体」となりました。今後は村と住民の皆さんが一体となり、みんなで守るための景観に関するルールづくりを行い、忍野村ならではの地域の活性化や観光振興につながることを期待されます。

富士山自然ガイドスキルアップセミナー開催

●調べるプロから伝えるプロへ●

1 月 25 日から山梨県環境科学研究所(以下、環境研)が主催する「富士山自然ガイド・スキルアップセミナー」(全 3 回シリーズ)が始まりました。これは、富士山でガイドやインタープリテーション活動に携わる方を主な対象に、富士山の自然科学的な知見や情報を提供することを目的として環境研が開催したものです。このセミナーの特徴は、富士山をフィールドに活躍される研究者から最新の研究成果がわかりやすく紹介される点です。また、冒頭荒牧環境研所長は挨拶で「専門知識を一方的に伝える場ではなく、双方向での議論ができる場になりたい」と話された通り普段からの疑問や知りたいことを直接質問できる雰囲気も大きな魅力です。



各発表に熱心に耳を傾ける参加者

第 1 回のセミナーには主催者の予想を大きく上回る約 80 名が参加。午前中に植物の分野から 2 件、午後に動物(昆虫)の分野から 2 件の発表があり、1 月 28 日に行われた第 2 回目のセミナーでは青木ヶ原溶岩流の分布や溶岩の特性など地質に関する分野から 3 件の発表がありました。いずれの発表でも富士山に関わる人々にとって馴染み深い対象を、深く掘り下げる内容に参加者は引き込まれたようです。なお、2 月 16 日の第 3 回のセミナーでは火山や溶岩洞窟に関する発表が行われる予定です。

調べるプロ(研究者)から伝えるプロ(ガイド)へ。この連携はエコツーリズムの確立において重要な意味があります。知識によって得られた見解を、インタープリテーションの質的向上にどうつなげるかが期待されます。